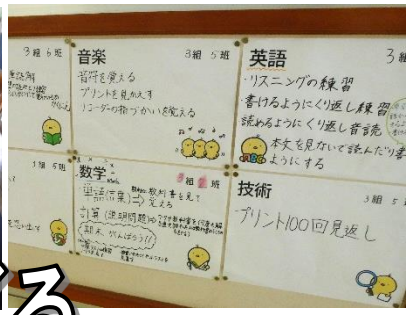
主人公

上尾市立瓦葺中学校　１学年通信

令和４年６月７日 発行　　第３号



「今」がこれからの自分をつくる
自分を伸ばしていくための「工夫」をしよう

部活動に本入部してから１か月。初めての定期テストもあり、本格的な中学校生活となってきました。テストで順位がつく、小学校にはなかった個票を受け取り、どんなことを感じたでしょうか。これが「スタート地点」です。これから伸びていく自分を育てていく、そんな気持ちで、１回１回の定期テストに向けた「工夫」を試行錯誤していきましょう。

学級活動では、中間テストへの自身の取り組みを振り返りながら、「テストに向けて、どんな学習をしたらよいだろう？」とグループで意見を出し合い、研究しながら、お互いに高め合う活動をしました。中間テストよりも期末テスト、１学期よりも２学期と、点数よりも「取り組み」が伸びていくことを期待しています。

１学年の力を感じられる機会も出てきました。５月にあった生徒総会では、事前に各クラスで、各委員会の活動、予算について質問を募る学級討議を行いました。どの学級でも時間が足らなくなるくらいにたくさんの質問や意見があがり、他学年の先生からも「今年の１年生は積極的でいいね！」という声が聞かれました。

先日、自転車で転んでケガした男の子を、下校中の瓦葺中生が介抱してくれたとの電話をいただき、１年生の中にも介抱をした生徒がいたようです。男の子は「こんなに優しいお兄さん、お姉さんがいる中学校に進学することが楽しみだ」と言っており、心温まる出来事でした。

「まわりの人を応援できる、まわりから応援される人になってほしい」先日までお世話になった教育実習生が、最後に言った言葉とつながるように思います。よい方向へ学年、学校全体を伸ばしていきたいですね。

輪になって学級会

「みんながみんな主人公」一人一人が大切にされる学年を目指し、一人一人がクラスや誰かに向けた感謝の気持ちと、よりよいクラスに向けて意見を出し合う活動を行いました。

「いつも話を聞いてくれてありがとう」「委員会の仕事の手伝いをしてくれてありがとう」一人一人の発表に全員が耳を傾け、自然とお互いに笑顔になれる、温かい雰囲気で活動していました。同時に、「初めてのテストにどう向かうか」「２分前着席をできるようにするには」など、積極的に意見を交わし合うこともできました。

中学校給食について知ろう

栄養教諭の湯浅裕利子先生を講師として、中学校給食について学ぶ食育授業を行いました。毎日の給食がどのように作られているのかを知り、小学校給食とのちがいについて考えることで、給食をきちんと食べることの大切さを学びました。

生徒の感想から（一部抜粋）

〇給食は人数より少し多めに作られていると思っていたけれど、一人一人に必要な量がぴったりで配膳されていることを初めて知りました。だから給食は盛り切りなんだと思いました。
私にはまだ給食の量が多いと思うけど、これからどんどん食べられるようになりたいです。

〇学校の給食は、働いてくれている人みんながおいしい給食を食べられるように、さまざまな機械や服の色、素材を工夫して使って作られていると知った。普段何も考えずに食べていたが、感謝して食べるようにしたい。

学級委員の振り返りから

５月の連休明けに学級委員会があり、各クラスのようすと、「２分前着席」の取り組みについて話し合いました。

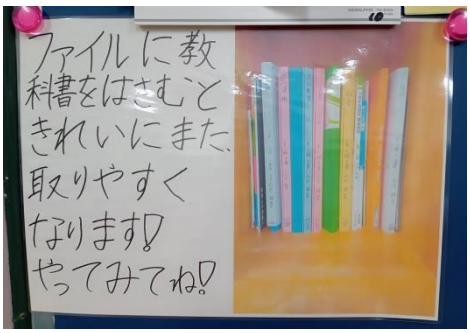
ありがたいなぁ、いいなぁと思うこと

〇小学校ごとに分かれていたのが、少しずつなくなってきている。
〇人間関係が広がってきている。
〇呼びかけを聞き、着席を守ろうとする人が増えている。

これから頑張りたいと思うこと

〇２分前着席がまだ徹底できていない。
〇着席したあとに、授業の用具を取りに行く人が多い。
〇授業中にロッカーに物を取りにいく人がいる。
〇授業中におしゃべりしてしまうところがある。

２週にわたる２分前着席の定着を目指した、「はじめの一歩」キャンペーンの１週目が終わったところだったことから、「学級委員がもっと本気で呼びかけをしよう」という決意と、「ロッカーにものを取りに行くことになるのは、教科で必要なものがまとまっていないからだ」として、ロッカーの整理の仕方を提案しました。学級委員会での取り組みが実を結ぶよう、「みんなで成長しよう」という気持ちで進んでいきましょう。



今月は、環境委員がロッカー整理に力を入れた取り組みを行います。